

## 認知症プロジェクト ～認知症への関わりを病院全体で～

これから迎える超高齢社会において需要が高まる高齢者救急に重点を置いた取り組みを進めています。その一つとして、認知症への関わりを病院全体で考えています。平成26年8月に高齢者急性期病棟の開設と同時期に認知症プロジェクトチームを立ち上げました、近隣の認知症に取り組んでいる施設を見学させていただき、急性期の病院でもできること、また急性期病院ならではの取り組みを進めているところです。

### ●治る認知症を見逃さない



一般的に“認知症”と言っていますが、その中でも治療により治る可能性のある認知症があります。

「正常圧水頭症」がこれにあたります。特発性正常圧水頭症は、くも膜下出血、髄膜炎等の先行疾患がなく、歩行障害を主体として認知機能低下、尿失禁をきたし、髄液循環障害に起因する脳室拡大を伴う病態です。中高齢者に多くみられ、症状はゆっくり進行します。適切なシャント術によって症状の改善を得る可能性がある症候群です。

当院では、医療従事者のみでなく、職員全体が研修会に参加して、認知症を学んでいます。多職種（看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー）で編成したプロジェクトチームを中心として、院内で認知症への関わりを行っています。



### ●ユマニチュード技法を実践するために…



認知症の患者さんは、環境の変化で症状が悪化することもあるが、関わり方によっては症状が緩和することもあります。最近、認知症の方へ「その人の人間らしさを尊重するユマニチュード技法」を行うことで、ケアの効果が期待できることが提唱されています。当院ではユマニチュードの研修会に参加し、学んだことを院内研修で伝えることで全職種が認知症の方へ関わり、入院中に認知症の症状が悪化しないよう取り組んでいます。

**病院職員全員が  
高齢者にやさしく  
関わっていきます。**

